

## オーディオ実験室収載

### ZANDEN Model 120 の活用(5) —Model 120 設定条件の試聴(5)—

#### 1. 始めに

前報(4)に引き続き、アナログ盤を選定して Model 120 の設定条件を替えて試聴していきます。今回は、Sharlin 盤を選定しました。

#### 2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の導入(2)と同様、下記のとおりとします。

LP-12→(フォノケーブル)→AACU-1000→Model120(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランス/バランス変換ケーブル)→P&G フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→300B シングルアンプ(バランス入力端子)

なお、クロスチェックの意味で、カートリッジは、ZYX R100-EX とし、接続に関しては、Garrad401 の再構成(10)と同様、下記も使用します。

Garrad401→(フォノケーブル)→Stage1030(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→AACU-1000→(RCA ケーブル)→Brooklyn DAC+(アンバランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→P&フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→300B シングルアンプ

音源としては、下記の Sharlin 盤を選んで聴いていきます。

#### Sharlin SLC-24

Vivaldi-Bach : 調和の幻想イ短調作品 3-8

調和の幻想ニ短調作品 3-11

オルガン協奏曲イ短調 BWV598

オルガン協奏曲ニ短調 BWV598

アルベルト・ゼッダ指揮ミラノアンジェリクム室内合奏団

#### Sharlin PA-1139 (TRIO)

ガブリエル・フォーレ : ピアノ 5 重奏曲

ジュルメール・ティッサン・ヴァランタン(pf)

ORTF 弦楽四重奏団

#### Sharlin PA-1116 (TRIO)

ベートーベン : ピアノソナタ 31 番 32 番

エリック・ハイドシェック  
Sharlin PA-1117 (TRIO)  
ベートーベン：ピアノソナタ 28 番 30 番  
エリック・ハイドシェック

### 3. Model 120 設定条件の試聴結果

試聴は、RIAA の正相からスタートして、種々切り替えて聴いていき、良さそうなところで、第 4 時定数も決めていきます。

Vivaldi-Bach の協奏曲集は、正相にすると、アンサンブルの音が散漫になりますので逆相にしてイコライザーカーブを切り替えていきますと、EMI カーブがもっともバランスが良く、ヴァイオリンとアンサンブルの弦が艶やかで、オルガンの音色も地元のホールのオルガンに近い印象です。EMI カーブの次は DECCA カーブが候補となります。EMI カーブで第 4 時定数を High→Mid→Low と切り替えてみると、Mid と Low は響きが過剰になります。Garrad401 のシステムで Brooklyn DAC+での位相反転を行いますと、アンサンブルもオルガンも音の芯がしっかりしてきます。

ZANDEN のリストでは Sharlin のオリジナル盤については、EMI カーブの逆相となっており、第 4 時定数は記載していません。

フォーレのピアノ 5 重奏曲は、Vivaldi-Bach の協奏曲集に倣い、EMI カーブの逆相と第 4 時定数 High からスタートし、Trio Record からの発売ですので、他の条件によいものがあるかと思って切り替えてみましたが、スタートの条件に落ち着き、第 4 時定数も High のままで良さそうです。RIAA の正相しか選択肢がなかった時点で鳴らしにくい盤だという印象を持っていましたが、理由が分かりました。

ベートーベンのピアノソナタの 2 枚は、EMI カーブの逆相からスタートし、RIAA の正相でも良く鳴っていた記憶がありましたので、そうしてみましたが、スタンウェイの音の芯が甘くなりました。EMI カーブの逆相での第 4 時定数も High のままで良いのですが、Mid でピアノ響きが豊かになるところも魅力です。

### 4. まとめ

4 枚の Sharlin 盤は、TRIO Record 発売のものも含めて、EMI カーブの逆相で良さそうです。第 4 時定数は好みで調整することとします。

以上